

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170504054), 法人名 (社会福祉法人ノテ福祉会), 事業所名 (グループホーム「ごきげん」清田), 所在地 (札幌市清田区清田1条4丁目1-16), 自己評価作成日 (平成27年4月10日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ごきげん」清田では、以前から「自分でできる事は自分で行っていた... グループホーム「ごきげん」清田では、以前から「自分でできる事は自分で行っていた... 食器拭きや洗濯物の片付け、掃除などの家事を入居者が行えるように職員が間に入り行っております。環境にも恵まれており、目の前を流れる厚別川での魚釣りや、裏庭にある畑での野菜作りや花を育てております。採れた野菜は日々の食事に、秋には収穫祭を行い裏庭でバーベキューを行い皆様で楽しみました。隣の小学校との交流も盛んで、各行事への参加や児童の訪問、勉強会の開催や、地域に向けての介護相談室の開催など、皆様に支えられながら地域密着を念頭に頑張っています。職員の教育にも力を入れており、法人内・外様々な研修に積極的に参加し各自スキルアップに取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr...)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年1月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「ごきげん」清田は、「社福法人ノテ福祉会」が福祉の理想を求め構築している「地域包括システム」の一翼を担っている。高齢者が住み慣れた地域で要介護状態になっても安心して生活を送れるよう、医療と連携して介護サービスを提供する地域でのサテライト事業所として、その機能を存分に発揮している。利用者は、思いや希望を職員に聞いてもらい、心こもった手厚い介護サービスを受けている。廊下は広々とした空間が確保されているが、手すりが設置されていない。利用者の残存能力を引き出し、いつまでも活力が保持されるようにとの願いから、危険発生のリスクは、職員... 外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff actions.

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者、家族、地域、職員の絆を大切に、日々実践に取り組んでいます。 | 法人理念のほか事業所独自の理念を作成・共有し、絆を大切にしたい安心できる暮らしを目指し、利用者の生活を支えるため職員一丸となって実践に取り組んでいる。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣小学校への認知症勉強会開催、職員が交流の幅を広げ入居者の生活支援につなげている。地域行事(各祭りや草刈り、ゴミ拾い活動)へも参加している。 | 隣接する小学校の各種行事への参加、総合学習で児童の来訪など相互交流を行っている。地域の祭り、町内会行事に参加するとともに介護相談、ボランティアの受け入れなど理念に謳う「地域とのふれあい」を大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域への介護相談会、小学校への認知症勉強会の開催。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日常の様子やサービス内容、ひやりはっと、事故報告などにおいて、意見をいただきサービス向上に活かしている。 | 包括支援センター、家族の参加を得て定期的に開催している。避難訓練の後に消防署を交えての講評と意見交換、ミニ研修会など有意義な運営になるよう工夫している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市や区の担当者との連絡の取り合いにて助言を頂いている(入居状況、加算算定)事故報告書提出の際はケアプランに対しての指導も頂いている。 | 担当ベースでの密接な報告・連絡・相談のほか、管理者会議、研修会で有意義な情報を得て事業の運営を行っている。区や他のグループホームと連携して「高齢者徘徊搜索模擬訓練」を実施している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 虐待に関する研修会の参加や身体拘束のマニュアルを作成し内容の理解、身体拘束ゼロを実践している。職員の言葉遣いや話し方についても皆で声を掛け合いより良いケアに努めている。 | 研修に参加した受講者は、会議で報告するとともに全職員に回覧し共通理解のもと身体拘束のないケアの実践に努めている。言葉による阻止についても職員同士注意を払い利用者的人格を尊重した支援に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員間での声の掛け合い、会議等で振り返りを行う。研修会での内容を職員全員で共有しケアに反映させている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 内・外部研修参加にて理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書・重要事項説明書は契約前に、説明を行いながら疑問点などを確認して頂き、署名・捺印を行っている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族アンケートや運営推進会議、家族の面会時などに意向を伺っている。他、職員も積極的に家族と関わる機会をもち、お話を伺うようにしている。 | 定期的に開かれる運営推進会議に毎回、複数の家族が出席し意見を述べている。法人で行う年1回の家族アンケート、来訪時の会話、電話連絡時に意見や要望を聞き改善に繋げている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者と職員の日ごろのコミュニケーションや対話の時間を大切にし、思いや意見を聞く機会をもっている。(各会議、人事考課、日ごろの業務時間外にて) | 日頃のコミュニケーションの中、毎月の職員会議、シフト作成時の会議において意見や要望を聞き取っている。年2回の人事考課の際の個人面談での様々な意見や提案など、出された意見は前向きにとらえ改善に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事考課を年2回行い、給与に反映している。毎月のシフト作成時も、各職員の希望を考慮し作成している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 採用時研修やその後のフォローアップ研修、段階に応じた教育と日ごろの業務にてリーダーや管理者からアドバイスを行うようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 区内の管理者会議に参加し、情報交換を行うほか、区のケア連や各研修にて横の繋がりを大切にしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前の実調で、本人と面談を行い、安心して生活できる準備や声掛けを心がけて対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回のケアプラン作成時に困っている事、要望等を伺い反映している。カンファレンスでの話したことを、都度家族に説明を行い、意見を伺っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者・家族の要望を伺い、グループホームでのサービス内容（出来る事、出来ない事）の説明を行っている。グループ内の相談員の助言を頂き、状態にあったサービスを提案している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日々の生活の中で、役割を共に共有し、常に生活の質の向上と自立に向けての関わりを心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日頃より関わりを多く持ち、家族が話をしやすい関係を持てるよう努めている。些細なこともちから相談させてもらい、家族も日ごろの支援に参加してもらっている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族だけでなくご友人の方々にも声をかけさせてもらったり、馴染みのサービスやお店に行けるよう支援しています。 | 家族、友人の訪問があった時はゆっくり面会できるよう配慮している。馴染みの美容院に行ったり、来てもらうなどこれまでの関係が途切れないよう支援している。いつも訪れている小学校、菖蒲園なども馴染みの場所になりつつある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 互いに役割を持てる作業の促し、生活リハビリ・集団レクリエーションなど、お互いに支え合う気持ちを引き出す対応をスタッフがアプローチする。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 在宅へ戻られた方については、現在のサービス事業所へ訪問を行ったり、病院へのお見舞いを行い、関係を継続している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 「本人が自分で行いたい」という気持ちを引き出すための会話を心がけている。聞き取りが困難な方については非言語で発するメッセージを受け止め援助に努めている。 | 何気ない日常の会話の中からの思いや暮らしの希望を毎日の「生活介護記録」にとどめ支援に役立てている。入所に当たっての事前面談では、何度も訪問し、時間をかけて思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 聞き取り用紙の使用の他、できる限りの情報は本人や家族から伺っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活が違うため、日常生活の中の食事・排泄・更衣など自分自身で行う事が出来る事を、見守りながら行って頂き無理のないように動作を促している。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンス他、各担当でもモニタリングを行えるよう計画している。 | 毎月、全職員参加のケアカンファレンスでモニタリングを行っている。結果を家族に伝えて意見を聞き、計画作成者が纏め、家族の同意を得ている。作成に当たってはサービス内容が誰にでも分かるよう細かく記載している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子を記録に記入している。特変事項や楽しんでいる様子、その時の発言等は特に詳しく記入し、読む事で状況が誰にでもわかるように心掛けている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族への連絡し、外出時の送迎サービスなど、家族の要望には柔軟に対応している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 各入居者のニーズに合わせた外出も行っている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している | 入居時に主治医の継続利用の呼びかけや、身体状況に応じ訪問診療の案内など行っている。 | 以前からのかかりつけ医を継続して利用することを勧めて同行介助を行っている。また、心身の状況を勘案し訪問診療への切り替えなど適切な医療が受けられるよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師へ個々の利用者の状態について報告し、24時間連絡体制が可能になっている。他、週に1回の訪問時には入居者一人一人について相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 職員がお見舞いに行き、状態把握に努めている。各病院の医療相談員とも連絡を密に行っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 重度化した時の対応について、契約時に説明を行い同意を得ている。協力医療機関の説明も行い、ホームの看取りについても説明を行い、家族の意向も聞いている。職員も重度のケアや看取りについて学んでいる。 | 重度化指針があり契約時や状況変化に応じて話し合い、家族の希望を聞きながら合意を得て対応している。これまで数件の看取りを行っており、これからは看取りが避けられない情勢から職員の研修に力を注いでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 普通救命講習の研修を受け、資格取得に努めている。マニュアルも作成し、緊急時の連絡網の作成も行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防訓練・内部研修も行っている。年に数回消防が立ち会いのもとで訓練を行っている。消防訓練・講習時には地域の消防団の参加を呼びかけ開催している。 | 年数回、消防署、地域の消防団参加のもと避難訓練を行っている。今夏の大雨による避難勧告発令時の行動からは多くの教訓を得ている。また、スプリンクラーの設置、防災点検の重視など防火面に力を注いでいる。 | 災害は一度発生すると大きな影響を及ぼすことから今回の気象災害を契機として他の災害対策や災害発生後の対応についても再度、点検確認することを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | コミュニケーションでは距離感を大切にし、各利用者に関わりを持っていく。人格、尊厳を大切にされたケアを心がけている。 | 一人ひとりの人格や尊厳を損ねないよう言葉かけにお互い注意を払い対応している。収集した個人情報については事前に利用についての同意を得るとともに管理を徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 関わる時には傾聴し、疑問に思っている事には最終的な答えを導きだせるよう会話を進めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務優先にせず、入居者の生活を中心に考えケアに努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 必要物品の購入や、毎日の洋服選びについて自己決定が行える支援を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 外部から法人内での配食サービスとなり、入居者個々の好みに添えるようにしている。時に入居者で献立を考えてもらったり、調理にも参加してもらっている。 | 配食サービスの利用であるが、利用者の好みに合わせ2種類の中から選択している。毎週希望メニューを取り入れたり、出張寿司、菜園で栽培した野菜、野外での焼肉パーティーで楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理が必要な入居者の水分・食事量については確認を行っている。栄養士・主治医の指示にて水分・食事管理を行う事もある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔状態の確認・口腔ケアを行っている。自立されている方も、口腔内の確認をさせて頂いている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄機能に応じた関わりを心がけている。オムツ使用者でもトイレでの排尿・排便を促す対応を行っている。 | 排泄パターンを把握して適切なタイミングで声掛けし排泄自立に向けて支援を行っている。おむつに頼らない排泄を心掛けており、布パンツに改善した人も見られる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量や適度な運動に心掛け、下剤に頼らない排泄を目標としている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 昼間の入浴で週3回は変わらないが、希望であれば午前中もやっている。入居者の状態に応じ2名介助や同性介助、シャワー浴などを行っている。 | 利用者の希望を取り入れたり、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。浴室に床暖房を設置したり、入浴剤を利用するなど快適で楽しい入浴となるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の身体状況に応じ、臥床時間を設けている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方薬のファイリングを行い、各職員が確認を行えるようにしている。変更時には申し送りにて報告を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々に必要なアクティビティーを実施している。活躍できる場を持つことで、意欲の引き出しにも繋げている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 当日の体調を確認し、外出の有無を自己決定して頂き、外気浴に努めている。常にお断りがある方でも、声掛けの工夫や行きたい気持ちを引き出すように心がけている。 | 向かいの厚別川河畔や近くの公園への散歩、菜園での花、野菜の生育を楽しみながら気分転換を図り生活の潤いと活性化に繋げている。買い物、隣接する小学校の各種行事や地域の祭り、四季折々の外出行事など楽しむ機会も多く持っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本の預かりはホームでの管理であるが、目的に応じて買い物など自分で使用できるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は家族の確認を行い、いつでも使用できるようになっている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に沿った行事、それに合わせて居住空間を演出している。また温度や湿度・臭気対応について、タオルを干したり、窓を開けるなどの換気対策を行っている。 | 共用空間は、明るく広々としており清掃も行き届き清潔感にあふれている。花、絵画、写真、季節の行事を取り入れた装飾など居心地の良い空間である。利用者の面会、記念行事に使える広いファミリールームも設けられている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 終日同じ場所にはいる事のないように過ごして頂いている。気の合った入居者同士と一緒に過ごせるように、職員が間に入りセミパブリックスペースなども利用されている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や小物を自宅から持ってきていただくよう家族にはお願いしている。実際大きな家具等は困難でも身の回り用品などはお持ちいただいている。 | 馴染みのもの、思い出の品を持ち込み、壁面には写真、人形、作品で飾るなど自分の好みに合わせ居心地よい居場所となるよう工夫している。各室には洗面台も設置され、清掃も行き届いている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーの設計になっている。ホーム内の廊下に手すり等は設置しておらず、残存機能を活かすために歩行器・杖・車椅子の使用して生活できるように支援している。 | | |